

地方都市における地区別の生活環境の評価

平成 23 年 2 月 07 T 3804 K 八鳥 雄介

要旨

< 目的 >

現在、地方都市において、アメニティの向上、コミュニティの安全性など住民生活の質的向上が求められ、生活環境が重視されるようになってきている。生活環境を捉える場合、単に種類の物理的環境だけでなく、それに対する住民の意識を把握すること、両者の因果関係を把握することが重要である。特に実際の生活者である住民の意識を把握することは重要であり、それを基に生活環境の改善に向けた議論の場の構築が必要である。本研究では、このようなことを踏まえて、地方都市における生活環境の改善項目を定量的、視覚的に明らかにし、地区別の生活環境の評価を統合して、生活環境の改善の方向性を探ることを目的とした。

< 方法・特徴 >

安曇野市を対象地域として、地区の生活環境についてアンケート調査を行った。まず、地区ごとに生活環境の満足度を求め、GIS を用いて地区別に生活環境を比較した。次に、CS 分析を行って、生活環境の重要度と満足度の関係を把握した。さらに、この CS 分析で求めた重要度を用いた重みつき線形結合により生活環境の評価を統合して、地区別の生活環境の改善に向けた指標を検討した。

< 結論 >

CS 分析を行った結果、利便性と快適性が住み心地に対して重要であることがわかった。快適性は満足度も高く、現在の安曇野市の住み心地を高める要因となっている。しかし、利便性は満足度が低く改善が必要である。重要度を重みとした線形結合によって、地区別の総合的な生活環境の指標を作成することができ、定量的に生活環境を評価し、視覚的に改善が必要な地区を明らかにした。

以上のことから現在の生活環境を把握し、将来的な生活環境の改善の方向性を探ることができ、今後の生活環境整備における効果的な施策に利用できる。

指導教員 藤居 良夫 准教授